

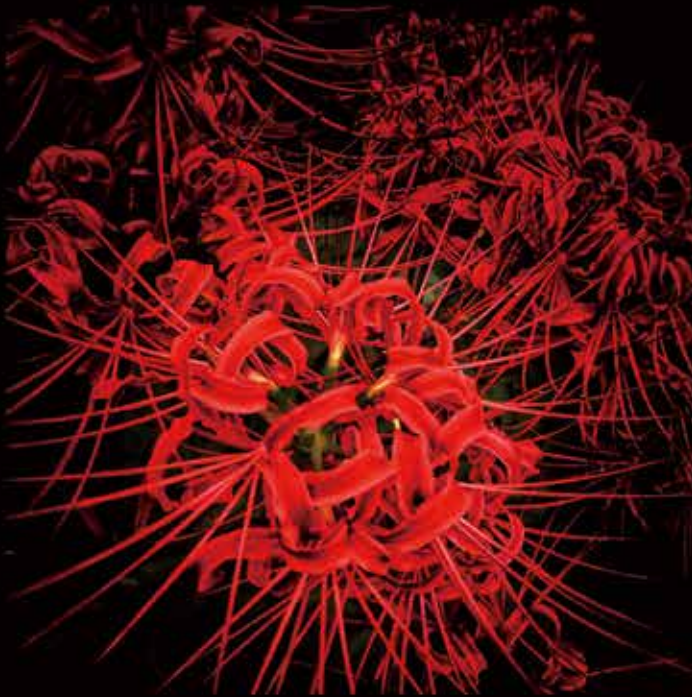
建築人

2025
9

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.735

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる





「MOAIの独言」
 日々心に引かった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
 私が惹かれるのは
 蓄積された時間が感じられるモノや光景
 自然の造形物
 今その時しかない光
 固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI
 岩手県盛岡市出身
 1985年大阪芸術大学卒
 同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
 あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
 1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
 大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2025.09 No.735

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「光土間の隠れ家」2024年

第68回 大阪建築コンクール 渡辺節賞 受賞作品

設計：一級建築士事務所KNOOOT

施工：KNOOOT

撮影：緋田昌重

再建築不可の旗竿地に残された築86年の空き家の再生プロジェクト。建物性能の悪化や資金的制約、住まい手の価値観の変化といった空き家問題の本質に向き合い、光土間の創出と戦前建物を活かした断熱・耐震改修によって現代の快適な住まいへと再生した。住宅密集地における空き家再生の新たな手法を模索した。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「堂島関電ビル リニューアル」

設計：大林組

施工：大林組

「CONCOURSE」

設計：マニエラ建築設計事務所

施工：建築工房小林

6 シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

10 動静レポート

11 Topics

12 Information

14 記憶の建築

「香川県立体育館」1964年

丹下健三と岡本剛の遺した記念碑的造形 / 松隈 洋

建築人 No.735 2025年9月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：河野 学 荻窪伸彦 笠松哲司

川北武志 小谷美樹 昇 勇

中北 力 橋本頼幸 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年9月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



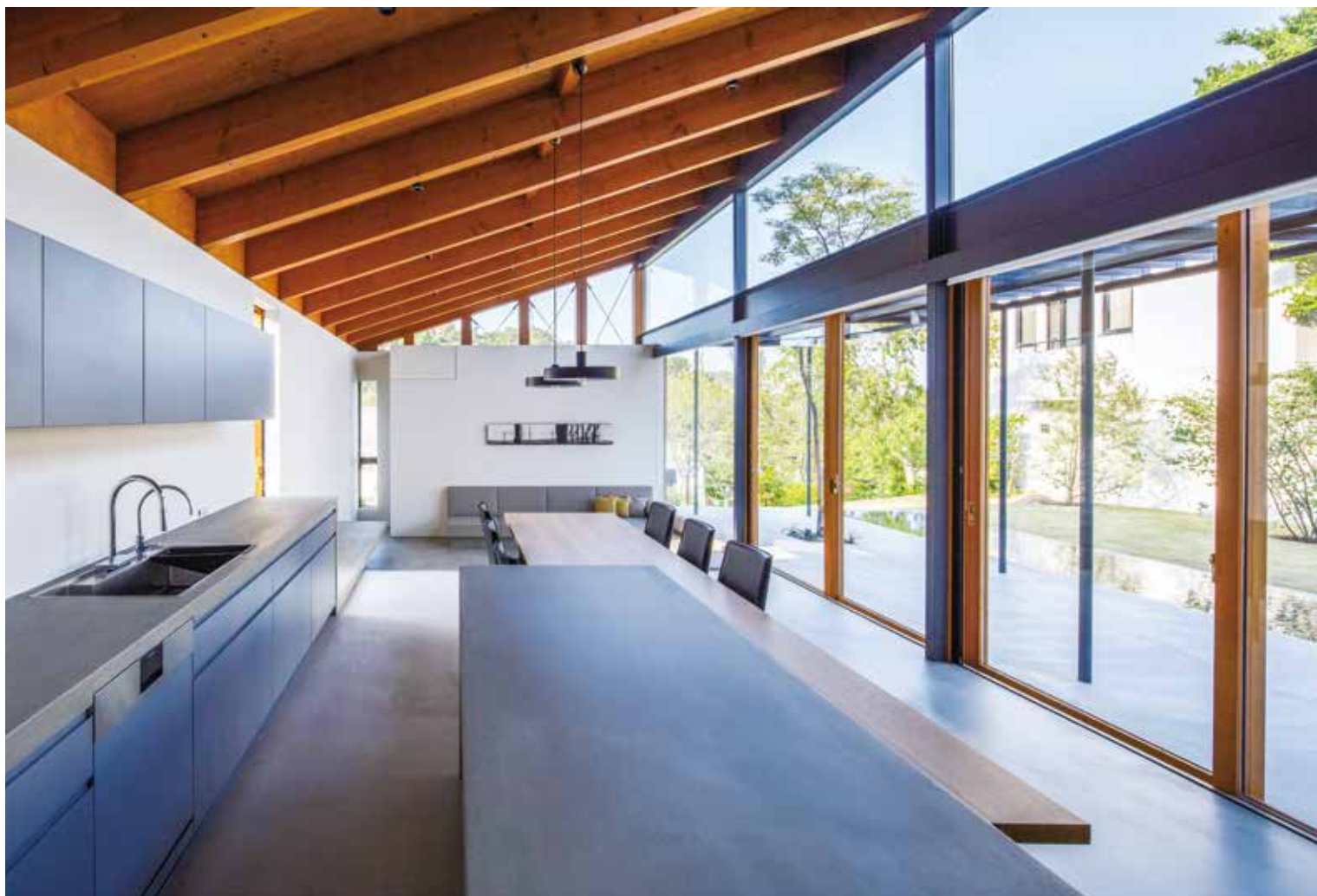
改修前外観

1972年竣工のオフィスビルの大規模リニューアルプロジェクトである。

既存ストックを最大限に活用して長寿命化を図り、「ESG×SDGs」「脱炭素」に配慮した。外観は、入居企業である積水化学工業の社名由来である「積水」をモチーフとし、水都大阪のランドマークを目指した。波形の底形状はシミュレーションにより外装熱負荷を軽減する寸法・角度を導き出し、執務室への自然な揺らぎのある採光を実現した。

従来の機能性優先の画一的なオフィスビルから、環境配慮や快適性・多様性に応えるこれからのオフィスビルとして価値向上を図った。今後の都市建築の長寿命化への一つの回答とした。

所在地：大阪府大阪市
用途：事務所
竣工：2025.06
構造規模：SRC造
地下2階
地上12階
敷地面積：3,702.61㎡
建築面積：2,923.82㎡
延床面積：25,769.87㎡
写真：伸和



敷地は西宮の街並みと北山の風景を堪能できる場所となっており、この風景を生活による動きの中でどのように見せるかに着眼を置き計画を行った。

敷地形状は間口に対して奥に長いため、廊下とLDKを一直線上に配置し、約20mの長い抜けを設けた。その廊下からは奥にある高窓を介して北山の山頂が見える。山頂に向かって進むと周囲の風景を最大限に取り込んだ大開口のLDKが現れ空間が一気に広がる。そこは、動きにより空間の広がりや風景、陰影が変化する「コンコース」として機能する。ファサードは、片流れの大屋根と下屋に挟まれた三角形のFIX窓が象徴的で、昼間は空を映し、夜はライトアップされた軸組の架構が顔を出す。

所在地：兵庫県西宮市
用途：専用住宅
竣工：2025.07
構造設計：天野一級建築構造設計事務所
構造規模：木造
地上2階
敷地面積：690.42㎡
建築面積：211.75㎡
延床面積：205.04㎡
写真：喜多 章

Foresting Architecture

森になる建築



(写真：増田好郎)

2025年大阪・関西万博に休憩所としてつくった仮設建築物。一時のイベントが終わったらごみになってしまう建築ではなく、みんなでつくり、メンテナンスしながら大切に使い、最後は土に還り、森になる建築である。

この建築の構造体は、木材を原料とする生分解性素材「酢酸セルロース」を現地で3Dプリントしてつくった。24時間連続運転を3週間行い、世界最大の生分解可能な3Dプリント建築としてギネス世界記録™にも認定されている。一方、仕上げ材には、多くの人が建築づくりに関われるよう手すきの紙を採用した。一般参加のワークショップで植物の種を漉き込んだ紙をつくったり、福祉施設の方や伝統工芸の和紙職人にも紙をつくってもらい、それをセルロース由来の糊で外壁に貼り付けた。これによって、建築の表面からはやがて草木が芽吹き、植物の成長とともに季節に応じて表情が変化する。半透明な躯体には風に揺らぐ木漏れが映り込み、まるで植物の中にいるような心地よい内部空間ができた。

私たちは、建築の“終わり”にも目を向け、最先端の技術と誰もが参加できる仕組みによって「つくる・つかう・森になる」という、新しい建築のあり方を万博で提案した。



(写真：増田好郎)

【建築概要】

敷地面積：300㎡
建築面積：31.0㎡
延べ面積：31.0㎡ (2UNIT)
構造種別：酢酸セルロース造
階数：地上1階建

【建築主】

(株) 竹中工務店

【設計・施工・技術開発】

(株) 竹中工務店

TECH WORLD パビリオン

世界をつなぎ、より良い未来の暮らしへ ～TECH WORLD～



パビリオン正面外観

TECH WORLD パビリオンは「世界をつなぎ、より良い未来の暮らしへ」をテーマに、「ライフ」「ネイチャー」「フューチャー」の3つをコンセプトにした展示空間をツアー型の観覧方式で館内をめぐる。

外観デザインは、台湾は3,000m級の山々が連なる山の島であることから、張瑪龍陳玉霖聯合建築師事務所により山の連なりをモチーフにデザインされた。また、台湾原産の蛇紋岩をアクセントに用いることで、山々の精悍さと豊かな森を表現している。

パビリオンを「山」と見立てており、入場すると、1階に広がるライフ劇場では、560台のタブレットが中央にそびえる円柱の「巨木」に投影される独自の生命観や生態系の映像と同調して、鮮やかなコントラストを描く。「巨木」の中は、エレベーターとなっており、4階の山頂へと導かれる。4階では360度の映像展示に包まれ、山並みを源とする水が大地を潤し豊かな自然が形成される様を頂上から見渡す。スロープで3階へ下りる途中で、実物の胡蝶蘭を觀賞し、さらにホテルの道を通り抜け、豊かな自然を織りなす生態系を近くに感じ様々な体験をしながら下山すると、3階の故宮AIギャラリーに辿り着く。このように、4階のネイチャー劇場から2階のフューチャー劇場に移り変わっていく。

それぞれの展示ごとに、デジタル技術や立体映像技術が緻密に仕込まれており、来場者にアクションを起こさせる仕組みと融合することで、来場者の視覚・聴覚・嗅覚・触覚・感性といった「五感」に働きかける。



1階ライフ劇場



4階ネイチャー劇場

(写真：(株) プライズ)

【工事名】

2025年大阪世界博覧會展館興建統包工程

【建築概要】

建築面積：1,233.57㎡

延べ面積：2,979.96㎡

階数：鉄骨造

地上4階建

用途：展示場・事務所・店舗

【発注者】

玉山デジタルテック(株)

【代表企業】

華熊榮造股份有限公司

【設計】

基本設計監修：張瑪龍陳玉霖聯合建築師事務所
設計・監理：(株) 梓設計
インテリア設計：SW design
展示設計・機器調達：安力徳系統整合股份有限公司

【展示技術】

タブレット端末機構：台湾工業技術研究院・穀米機工
展示映像製作：台湾設計研究院・MOONSHINE

【施工】

(株) 熊谷組関西支店（内、展示施工：TOPPAN(株)）

【契約工期】

設計：2023年 7月28日～2024年 3月31日
新築工事：2024年 4月 1日～2025年 3月31日
会期中の維持管理：2025年 4月 1日～2025年10月13日
解体撤去工事：2025年10月14日～2026年 4月13日

PASONA NATUREVERSE

いのち、ありがとう



©Tezuka Productions



2025年大阪・関西万博における「いのち、ありがとう」をテーマにしたパソナグループのパビリオン『PASONA NATUREVERSE』。いのちの象徴として、アンモナイトの「螺旋形状」を採用した建築デザインのパビリオンであり、膜と立体トラスを多用することで複雑な螺旋形状を忠実に表現するだけでなく、部材の軽量化を図り、大きな内部空間を実現させた。大空間の構築にあたりBIM用いて計画を行い、規則性のない約500個の下弦ボールジョイントを受けるための支保工を、高さ範囲の制限条件をBIMで自動生成しながら図面を作成していった。現地の作業ではパソコンやタブレットを用いることで、BIMとの整合をとりながら工事を進めていった。さらにARゴーグルも併用して足場の建地毎にAR上で色分けによる識別をしながら、手戻りの無い組立てを実施した。

環境の取り組みとして、屋根面に微量の水を流すことで炎天下の屋根面の表面温度を下げ、室内の空調負荷の軽減を図っている。屋根面で使用した水は雨水とともに回収され、館内の雑用水として循環される。

また、万博終了後にはパビリオンはレガシーとして淡路島へ移築され、再利用される。万博で組み上げられた部材は新築時に一つ一つにナンバリングを施しており、それを手で丁寧に解体する。解体した部材は層別に分けて新たにメンテナンスをかけていく。工場で再度検品した部材は、万博のコンセプトである「持続可能な社会を共に創り出す」一翼を担うべく淡路島において、新たな形で姿を現す予定となっている。

【建築概要】

敷地面積：3,514.42㎡
建築面積：2,263.83㎡
延べ面積：2,457.70㎡
構造種別：鉄骨造
階数：地上2階建

【建築主】

(株) パソナグループ

【設計・監理・施工】

建築デザイン：(株) the design labo
設計・監理：前田建設工業(株) 一級建築士事務所
施工：前田建設工業(株)

Qatar Pavilion From the Coastline, We Progress

海岸線からの発展



(写真：田中克昌)



(写真：田中克昌)

周囲を海に囲われたカタールと日本をつなぐ架け橋として、カタールの伝統的な木造船・ダウポートを表現した。船の帆をイメージした白い膜が木造の展示空間を覆い、周囲の水盤によって海に浮かぶ一隻の船が生まれた。風になびく帆のように膜を湾曲させ、足元の象徴的な連続アーチに接続することで、イスラムの幾何学を感じさせる新しくも厳かなファサードとなり、日光の透過や陰影によって様々な表情を見せる。

アプローチ部分では、カタールの海岸を表現したライム石の石床を歩き、膜と木を通り抜けるヒューマンスケールで居心地の良い空間が人々を迎え入れる。展示だけでなく、建物の周りを歩きカタールの自然・文化を体験できる、他の万博にはないパビリオンとなった。2国のクラフトマンシップや文化をつなぎ、未来へのつながりを生むカタール館となる。

特殊形状の敷地・地盤条件のもと、短期間での施工が要求されたが、プレハブ木造による工期短縮と鉄骨造による独立した膜外装のハイブリッドにより計画を実現した。外壁の木板は100年前に実際に使われた船の木色を表現するため、3色の特殊塗装により再現した。風になびく帆を表した膜外装は、木造ボリュームの外周部に鉄骨フレームを組み自立させ、たうえて、木板で鉄骨を被覆している。鉄骨柱脚が周囲の水盤と取り合う箇所では水盤形状を切り欠き、縁を切る形で設計した。

【建築概要】

敷地面積：1,846.05㎡
建築面積：1,047.52㎡
延べ面積：1,111.01㎡
構造種別：膜部／鉄骨造、本体／木構造
階数：地上2階建

【建築主】

Ministry of Commerce and Industry, Lusail
City, State of Qatar カタール国経済産業省

【設計・監理】

デザイン監修：隈研吾建築都市設計事務所
建築：前田建設工業(株)
一級建築士事務所
展示デザイン：OMA | AMO
展示設計：(株)乃村工藝社

【施工】

総合：前田建設工業(株)
展示：(株)乃村工藝社

動静レポート

会長動静

- 7/28 賛助会員委員会委員面談
ウクライナ視察のヒアリング
日本建築住宅センター・井上理事長
および日本建築士会連合会・古谷
会長との協議
- 7/30 兵庫県医療・建築連携協議「命を
守るひと部屋断熱・耐震」
- 7/31 淡輪山荘事業現場確認
- 8/1 大阪府収用委員会協議
賛助会委員会新製品・技術発表会
- 8/4 理事面談
- 8/5 大阪府収用委員会
茨木市長面談
- 8/6 新建新聞社記者懇談
日本建築士会連合会教育・事業本
委員会
- 8/7 ミャンマー歴史的建造物修復事業
協議
- 8/8 理事面談
JICA へのミャンマー支援報告会
守口市長面談
- 8/12 新入会員面談
- 8/15 日本建築センターとのミャンマー支
援事業協議
日本建築士会連合会協議
- 8/20 京都府建築士会の結露対策研修会
- 8/22 豊中市長面談
建設専門新聞社と意見交換会
- 8/23 日本不動産鑑定士協会・西川副会
長叙勲祝賀会

会長・役員による大阪府及び市町村訪問

◎ 8/5 茨木市・福岡洋一市長と面談



牧田専務理事、上田副会長、福岡市長、岡本会長、
田中理事、神保監事

◎ 8/8 守口市・瀬野憲一市長と面談



石貫副会長、瀬野市長、岡本会長、牧田専務理事

◎ 8/22 豊中市・長内繁樹市長と面談



牧田専務理事、宮田理事、岡本会長、長内市長、上田副会長

建設専門新聞社と意見交換会

8月22日、(株)日刊建設工業新聞社大阪支社、
(株)日刊建設通信新聞社関西支社、(株)建通
新聞社大阪支社、(株)日刊建設新聞社の方々
を招き、本会からは岡本会長他関係役員が
出席し意見交換しました。
「建築士会全国大会 おおさか大会」や「ひ
と部屋断熱・耐震改修」の取組みについて
ご紹介し、本会活動に対して率直なご意見
をいただきました。



令和 7 年二級建築士、木造建築士学科の 試験 合格発表

令和 7 年二級建築士、木造建築士「学科の
試験」の合格者が 8 月 25 日に発表されま
した。

(全国)

学科試験	二級	木造
実受験者数	16,383 人	443 人
合格者数	6,698 人	231 人
合格率	40.9%	52.1%

(大阪)

学科試験	二級	木造
実受験者数	1,223 人	36 人
合格者数	479 人	19 人
合格率	39.2%	52.8%

設計製図試験は、二級建築士は 9 月 14 日
に「シェアハウス (木造)」、木造建築士は
10 月 12 日に「専用住宅 (木造)」の各課題
で実施されます。

第 5 回近畿学生住宅大賞の実施

近畿建築士会協議会が主催し、本会が主管
する第 5 回「近畿学生住宅大賞」を実施し
ます。同賞は近畿圏内の建築系大学、高専、
専門学校に在籍する学生個人またはグルー
プ (院生は除く) より、各学校の住宅課題
として制作した作品をご応募いただき、社会
性、文化性、芸術性の観点で優れたものを
表彰し、勉学の励みにしていただくことを目
的としたものです。応募期間は、9 月 1 日～
9 月 22 日、最終審査及び表彰式は 12 月 6
日の予定です。詳細は本会ホームページをご
参照ください。

令和7年度「地域文化遺産のガイド人材育成講座」

日程：第1回 令和7年7月26日(土)・第2回 8月2日(土)

会場：第1回 綿業会館・第2回 大阪倶楽部

参加者：第1回 24名・第2回 20名

奥野雅子(ヘリテージマネージャー協議会 運営委員)



ヘリテージ委員会と大阪府ヘリテージマネージャー協議会では、文化庁の令和7年度文化芸術振興費補助金をうけて、「地域文化遺産のガイド人材育成講座(全3回)」を開催しています。この講座は、大阪の歴史的景観や文化遺産の魅力を広く伝えることを目的に、地域の町並みや文化遺産を案内できるガイド人材の育成を目指すものです。

今年度のテーマは「大阪 船場・中之島を学ぶ、近代建築を巡る」。船場・中之島を中心にその歴史やまちの成り立ちについて学びます。併せて近代建築に関する知識や、ガイドとして必要なスキルを身につけることを目標に、全3回の講座を企画しました。

第1回講座では、まず大阪歴史博物館館長・大澤研一先生より「船場の成り立ち」について興味深いお話を伺いました。次に近畿大学教授・高岡伸一先生には、「船場の近代建築とその活用」と題し、ご自身が携わったリノ

バージョン事例を交えながら、船場の近代建築についてご解説いただきました。

会場が重要文化財である綿業会館であったことから、館内見学ツアーも実施し、受講生の皆さまには、大大阪時代を象徴する豪華な内部空間を、ガイドの解説とともに体感していただきました。

続く第2回講座は、大阪倶楽部を会場に開催しました。京都大学教授・中嶋節子先生による「都市大阪の近代空間・近代建築」では、映画『大大阪観光』の映像を交えながら、近代大阪の都市空間と建築の変遷についてお話いただきました。さらに、大阪大学総合学術博物館副館長・船越幹央先生からは、「歴史的視点を重視したまち歩きの方法」について、手法の解説とあわせて、船場・中之島のバーチャルツアーを交えた講義を行っていただきました。

現在、第1回・第2回の講座が終了し、残すは

第3回(12月13日)のみとなりました。最終回では、青山ビルでの座学に加え、「中之島・船場を中心としたまち歩きの実践」と題し、船越先生による近代建築を巡るまち歩きを予定しています。

「ガイドなんて難しそう…」と感じている方にも、教養講座として充分にお楽しみいただける内容となっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



第1回 綿業会館内見学ツアーの様子

建築相談室から(99) 執筆を終えるに当たって その1

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

突然のお知らせとなりますが、この連載は来月の第100回をもって終了いたします。読者アンケートで人気下がってきて打ち切りというのはマンガ雑誌ではよくある話ですが、この連載がおわる理由は私も知りません。人気が無くなったのか役割を終えたのか。何はともあれ、あと2回ということですので、これまでの執筆を振り返り、このコーナーが目指したものを思いだしながら締めくくりたいと思います。

1. 年次報告

私が建築人の執筆を引き継いだ時には年次報告というのはありませんでした。建築人5月号に毎年簡単な報告はありましたが、せっかくの機会ですので、建築相談室の活動を分析し、次につなげる形にした方が良くと考え、始めました。年次報告は毎年10ページ程度の文量で2013年から2024年まで13年分まとめており建築士会・建築相談のホームページ内から閲覧可能です。

2. 第1期 ～提供事例から執筆～

私が執筆責任者として執筆をはじめたのは2012年7月からです。それまでは相談委員会で原稿を回して書いていました。その年の4月に会誌「建築人」がリニューアルされることになり、編集会議が立ち上がる少し前、相談委員会から私が指名されて情報委員会に参加するようになります。編集会議では従来の建築相談をどうするかの議論があり、一人の人が整えて書いた方が読みやすくなる、建築士に伝えたいことを整理しやすくなる、等から当時の建築相談分科会で協議し、まずは誰かがまとめて執筆してみようということになりました。タイトルは、～建築士の見たトラブル事例～として相談委員の方々に事例を紹介してもらい、それをまとめる私が執筆するようになりました。それ以外にも、そのときどきの話題をまとめながら2016年3月まで約4年間45回続けました。

3. 第2期 ～一人で執筆～

相談委員会から事例を提供していただくスタイルを4年続けたところで、相談委員会の当時のメンバーからの提供いただく情報のマンネリ化や提供協力がいただけないなど、話題提供をしてまとめていくことが限界になりました。そして私が相談記録を見ながらまとめて書くようになります。2016年4月に「建築相談室から」とタイトルを改め、番号を1から振り直し、同年10月を除いて2021年3月まで59回続きます。

4. 1年間の休載

2021年4月に再度建築人がリニューアルされます。その頃私が建築人の編集会議に十分に参加していなかったこともあり、知らない間に突然建築相談のコーナーがなくなりました。その事を知らなかった私は、2021年4月号の記事も早い段階で書いて送っていたのですが、その原稿は日の目を見ることはありませんでした。(つづく)

建築士会からのお知らせ

【本会正会員の皆様へ】
重要なお知らせ

令和7年度の臨時総会を11月19日に開催いたします。定款変更の議案があるため、総正会員の1/2以上のご出席（委任を含む）が必要となりますので、今月号に同封しております出欠票（委任状付）か下記QRコードより、必ずご返信をお願いいたします。

日時 11/19（水） 14：30～15：30
会場 大阪府建築士会東会議室
議案

- ・公益認定法改正に伴う定款等の変更
- ・令和7年度役員（外部監事）承認の件

出欠



令和7年度 建築士定期講習
9/17、10/17、11/20、12/12、1/21、2/13、3/26

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

- ▼日程・会場・定員
- | | |
|--------------------|-----|
| 9/17（水）大阪府建築健保会館 | 70名 |
| ※10/17（金）大阪府建築健保会館 | 80名 |
| 11/20（木）大阪府建築健保会館 | 70名 |
| ※12/12（金）大阪府建築健保会館 | 80名 |
| 1/21（水）大阪府建築健保会館 | 70名 |
| ※2/13（金）大阪府建築健保会館 | 80名 |
| 3/26（木）大阪府建築健保会館 | 70名 |
- 上記すべてDVD講習です。
- ※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注）各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間 9：15～17：00（各講習日共）

受講料 12,980円（消費税含。事前入金）
申込 建築技術教育普及センターHPより

既存住宅状況調査技術者講習
新規講習10/22
更新講習9/25、11/7、2/25
CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和4年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習（DVD）

日時 10/22（水） 9：30～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込21,450円
郵送申込22,000円

▼更新講習（DVD）

日時 9/25（木）、11/7（金）、2/25（水）
13：30～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujiyokyochosa.html>

令和7年度監理技術者講習
9/26 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 9/26（金） 8：55～17：00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会HPより

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会
（一般診断法）
10/29、12/2 CPD各5単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています（国土交通大臣登録講習ではありません）。講習会の修了者名簿は大阪府及び府内全市町村・関係団体等に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。

日時 10/29（水）、12/2（火） 10：00～15：50
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名（定員に達し次第締切）
受講料 会員5,000円、一般9,000円
テキスト代 7,300円

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

建築紛争セミナー10
監理の責任、どこまで？
建築士と弁護士の共通理解を深める
10/3 CPD2単位（予定）

本会は、大阪弁護士会と共催で「建築紛争セミナー」を毎年開催しております。今回は、工事監理における責任の範囲や法的リスクへの備え方を、建築士と弁護士の対話形式で説明いたします。

実務に役立つ内容になりますので、是非ご参加ください。

日時 10/3（金） 18：00～20：00
会場 大阪弁護士会館 10階1001・1002
（大阪市北区西天満1-12-5）
定員 60名（申込先着順）
参加費 無料



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

第68回大阪建築コンクール 受賞者講演会+トークセッション

10/10 CPD2単位(予定)

本コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績をたたえ、建築作品の設計者を表彰するものです。第68回は4作品が受賞し、これを記念して受賞者講演会をいたします。受賞作品のお話はもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。

日時 10/10(金) 18:30~20:45

会場 大阪工業大学梅田キャンパス203

大阪市北区茶屋町1-45

参加費 無料(申込不要)

その他のお知らせ

設立50周年記念事業

人・まち・建築アイデアコンペ

一般社団法人大阪府建築士事務所協会は、2026年に設立50周年を迎えます。この記念すべき節目を迎えるにあたり、次の50年に向けた持続可能な社会の実現への取り組みの一環として、「設立50周年記念事業 人・まち・建築アイデアコンペ」を実施します。

コンペスケジュール

開催概要発表: 7/1(火)

質疑期間: 7/1(火)~7/31(木)

質疑回答: 8/8(金)

登録期間: 7/1(火)~9/15(月)

提案受付: 8/18(月)~9/30(火)

詳細・申込 一般社団法人大阪府建築士事務所協会HPより

岬町正職員募集のお知らせ 【専門職: 行政職(建築職)】

試験職種 行政職(建築職)

採用予定人数 2名程度

受験資格等

1. 年齢要件

昭和50年4月2日以降に生まれた人

2. 学歴・免許等

(1) 学校教育法による大学、短期大学、専門学校又は高等専門学校で建築に関する専門課程を履修し卒業した人(令和8年3月末までに履修・卒業見込みの人を含む)

(2) 建築士(1級または2級)又は建築施工管理技士(1級または2級)の資格を有する人

(3) 直近10年中に民間企業や他の官公庁で通算2年以上の建築業務(建築関係の設計、積算、施工管理など)の実務経験のある人

詳細は岬町HPをご確認ください。

https://www.town.misaki.osaka.jp/soshiki/matidukuri/ch ocho_jinji/saiyo/5580.html



第39回 木質の利用シンポジウム

9/17

本シンポジウムでは、万博のシンボル「大屋根(リング)」をキーワードに、資源が美しく環を描くような、新しいモノづくりの姿を考えます。木や竹、食品廃棄物といった多様な素材の循環から、環境配慮設計の最前線に迫ります。

日時 9/17(水) 13:00~17:00

会場 ■オンサイト

京都府立大学 稲盛記念会館

1階104講義室

■オンライン

Zoomウェビナー

定員 ■オンサイト 100名

■オンライン 250名

詳細・申込 公益社団法人日本木材加工技術協会関西支部HPより

坂村健特別講演会

10/26

IoTの第一人者でもある坂村健氏をお迎えし、「トロン電腦住宅」と題して、講演会を開催いたします。

日時 10/26(日)

14:00~15:30(開場13:30)

会場 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)10階

演題 トロン電腦住宅

参加費 無料

詳細・申込 一般社団法人大阪府建築士事務所協会HPより

第11回建築構造用鋼材と利用技術セミナー 10/31

一般社団法人日本鉄鋼連盟では健全なる鉄骨造建築の普及活動として、2014年度から「建築構造用鋼材と利用技術セミナー」を開催しております。昨年に引き続き対面形式による講演を全国7都市にて行うこととなりました。第11回となる今回は、最新の研究成果や世の中の動向を踏まえて、建築構造用鋼材の利用技術、新工法等に関する5つのテーマについて、実務的・実践的に解説いたします。

【大阪会場】

日時 10/31(金) 13:30~16:40

会場 梅田センタービル

受講料 無料

詳細・申込 日本鉄鋼連盟HPより

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当: 母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

TEL: 06-6947-1961

丹下健三と岡本剛の遺した記念碑的造形

香川県立体育館 一九六四年

文・写真 松隈 洋〔神奈川大学建築学部教授〕

時の経つのは早い。ここに掲載する写真は、今から三一年前の一九九四年六月、友人たちと四国の戦後近代建築をはじめと巡り歩いた時に撮影したものだ。おりしも、前川國男の神奈川県立図書館・音楽堂（一九五四年）の再開発による取り壊し問題が起きていた。そのこともあり、戦後近代建築について、広い視点から考えようと急ぎよ企画され、「四国・公共建築行脚からの発見」という特集号にまとめられる（『建築ジャーナル』一九九四年十一月号）。この時、見学した十数件の中で最も感動したのが、松村正恒の江戸岡小学校（一九五三年）、神山小学校（一九五七年）、日土小学校（一九五六・五八年）の透明感あふれる空間だった。しかし、残念ながら、前者の二つは、直後に相継いで取り壊されて現存しない。それでも、近代建築の保存と記録を提唱する DOCOMOMO の活動が始まる四年前であり、当時は想像もできなかったが、日土小学校は、その後

南東側から見る正面外観



2階客席からアリーナを見下ろす



の地道な保存活動が実を結び、周到な改修が施されて、二〇一二年、国の重要文化財に指定される。その間、尽力した花田佳明さんの活動も、この建築行脚の出会いがきっかけだった。そして、最終目的地の高松で最後に訪ねたのが、丹下健三の香川県庁舎（一九五八年）と香川県立体育館（一九六四年）である。

ふたつの建築は、この二日前に立ち寄った、同じく丹下の手がけた愛媛県民館（一九五三年／一九九六年解体）の閉鎖後の痛々しい姿とは異なり、適切な維持管理が施されてきたのだろう、みずみずしい現役の存在感を湛えていた。そこには、独自の美学に貫かれた丹下の造形表現が見て取れた。また、それは、職人技の木製型枠による精緻なコンクリート打放し柱と梁、外壁の質感に支えられていた。あいにく休日だったため、県庁舎の内部に入ることはできなかったが、体育館では、四本の太い柱で持ち上げられた宇宙船の内部のような不思議なチューブ状のアリーナと、格子梁に支えられた客席の下に広がるガラス張りのホワイエで、バスケットボールの練習に励む中学生たちの楽しそうな姿に触れることができた。実は、この時、前川や松村の求めた中庸な空間とは異質の、どこか気負いの感じられる丹下のアクロバットな造形に、正直、戸惑いと違和感を覚えた。そのため、先の特集号に、体育館に触れる文章を記すことはなかった。

けれども、今回、久方ぶりに写真を取り出してみると、違う感覚になった。そこに写る、普段使いの体育館だから持ち得た生きた時間そのものが、かけがえないものに見えるのだ。それは、二〇一四年に耐震性の問題から閉鎖され、使われなくなった現状からは感じ取れない何かなだ。建築は使われているからこそ、生き生きとした存在であり得る、という当たり前のことに気づかされた。さて、思い起こせば、この最初の高松の丹下建築との遭遇から三一年の間に、さまざまな出会いにも恵まれていく。まず、旅行直後の一九九四年七月から、戦後五十年の節目に戦後近代建築を再検証する著書『戦後建築の来た道行く道』（東京建築設計厚生年金基金発行一九九五年）の編集委員会の末席に加わる中で、一九九五年一月十七日に阪神淡路大震災が起きる。そのこともあり、この著書への収録を目的に、広島戦後復興に携わった丹下健三本人へのインタビューに同席する機会を得る。続く一九九八年からは、DOCOMOMOの最初の二〇選を選定する委員会に加わり、選ばれた丹下の三つの建築、広島平和記念資料館（一九五五年）、香川県庁舎、国立屋内総合競技場（一九六四年）の展示のために、草月会館の丹下事務所にかがいが、設計原図を閲覧する。また、時を経た二〇一三年には、香川県立ミュージアムの主催で開催された丹下健三生誕一〇〇周年記念建築展の実行委員会の末席に加わる。この時、印象的だったのは、記念シンポジウムで、横文彦が、最後に、「丹下さんの代々木体育館を世界遺産にしたいので、皆さん、協力して下さい」と呼びかけたことであり、それが起点となり、二〇二一年の国の重要文化財指定へとつながる。さらに、丹下展の終了後、香川

県出身の構造学者で東京大学名誉教授の岡田恒男（一九三六年～）の下で香川県庁舎の耐震化検討会議に加わり、免震による万全な改修工事を経て、二〇二二年に国の重要文化財に指定されるまでの経緯を見届ける。同時に、香川県の建築技師として長く活躍し、二〇二四年に国の重要文化財に選定される瀬戸内海歴史民俗資料館（一九七三年）を手がけた山本忠司の仕事に触れる機会も得ていく。こうして、香川県の戦後近代建築にかかわる貴重な経験を積み重ねることができたのである。

そんな今だからこそ、解体の危機にある香川県立体育館を見過ごすことができな。そこには、レーモンドの代表作である群馬音楽センター（一九六一年）の構造設計に携わった岡本剛（一九一五～一九四四年）が、狭小な敷地を逆手に取り、「スポーツのもつ力強さを象徴する雄壮、雄大な構想」と、選手と観客との「人間的な交流と連帯感を高めようような空間構成」を求めて考案したダイナミックな構造体を実現している（『近代建築』一九六五年六月号）。二〇一四年の閉鎖後も、地元有志による保存活動が続けられてきたが、二〇二五年七月、新たに発足した再生委員会が、全額自己資金による保存・再生案を公表した。しかも、その間、構造設計の手描きの原図が見つかり、正確な耐震改修の検討作業の道筋も見えてきた。建築の価値は発見され、創造されていくものだ。今こそ丹下と岡本の遺した記念碑的造形を次世代へ引き継ぐ新たな挑戦を始める好機に違いない。そのための開かれた議論の場を望みたい。

この向こうに、
どんな彩りが
待っているだろう。

瑞々しく咲き誇る花の香りを携えて、
店を後にする人がいる。
弾む心の温度が、ドアハンドルへ伝わる。
わたしたちが大切にする高い美意識と
クラフトマンシップが形になったとき、
空間は色づき、訪れる人の日常を
特別な瞬間に変える。
贈り物も、ものづくりも、想いに応えたいという
心意気から生まれる。
アートウェア。それは、美しさを追い求め、
かたちにすること。



UNION
ARTWARE

株式会社ユニオン

[本社・大阪支店]

550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 tel 06-6532-3731

[東京支店]

135-0021 東京都江東区白河2-9-5 tel 03-3630-2811

[名古屋営業所]

454-0805 名古屋市中川区舟戸町3-20 tel 052-363-5221



吹き抜けに面した大きな開口部と洞窟のような生活スペース



住宅密集地の街区中央にひっそりと佇む